

日本国内でサービス提供している主要パブリッククラウド/VPSの IPv6対応状況

運用設計ラボ合同会社

シニアアーキテクト 波田野 裕一

IPv6 Summit 2015

2015-11-16

本資料について

- ・ 本資料は、IPv6 Summit 2015(2015-11-16開催)のパネルディスカッションでの発表資料です。
- ・ 本資料の内容は、2015年11月15日時点における発表者の調査に基づくものであり、その内容を保証するものではありません。

はじめに

- 2011年にIPv4アドレス在庫枯渇 (**4年半が経過**)
 - 通信事業者やISP各社から**IPv6対応サービスが拡大**
 - **IPv4のみでの運用からIPv4とIPv6の共存期へ**

という
期待

IPv6提供サービスの拡大

- **主要な国内事業者の状況**
- **主要な海外事業者の状況**

という
現状

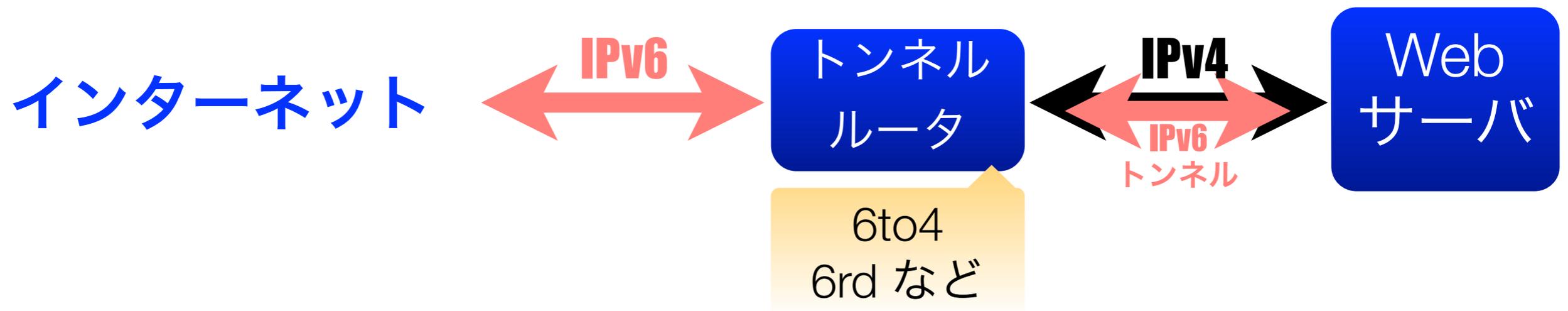
クラウドのIPv6対応とは

クラウドのIPv6対応

1. IPv6トンネリングの利用
2. トランスレータの利用
3. IPv6ネイティブでの接続

接続方法1: IPv6トンネリングの利用

トンネルブローカなどが提供するトンネリングサービスを利用し、ユーザが自主的に接続する。



メリット: 手軽に導入できる。

デメリット: トラブルの原因追求が難しい。

本発表では対象外

接続方法2: トランスレータの利用

クラウド事業者が提供するロードバランサをトランスレータとして利用する。



メリット: 提供されていれば手軽に導入できる。事業者のサポートを得られる。

デメリット: モダンなWebサービスではロードバランサは使われない傾向に。

接続方法3: IPv6ネイティブでの接続

クラウド事業者が提供するIPv6ネイティブ接続を利用する方法。



メリット: ネイティブなIPv6接続が得られる。事業者のサポートを得られる。

デメリット: (特になし)

主要な国内事業者の状況

主要な国内事業者の状況

- ・ **グローバル側にネイティブ接続を提供**
 - ・ ◎ IJ GIO (IJ) (CDN機能のみ未対応、対応予定あり)
 - ・ ◎ ABLENET VPS (ABLENET)
 - ・ ◎ ConoHa (GMO)
 - ・ ◎ ServersMan VPS (DTI)
 - ・ ◎ さくらのクラウド / さくらのVPS (さくらインターネット)
 - ・ ◎ BIGLOBE クラウドホスティング (BIGLOBE)
- ・ **ロードバランサにIPv6アドレス割り当て可能**
 - ・ ○ ニフティクラウド (Nifty)
- ・ **未対応 (対応予定あり)**
 - ・ × CloudCore (KDDIウェブコミュニケーションズ)
- ・ **未対応 (対応予定明記なし)**
 - ・ × Cloudn (NTTコミュニケーションズ)
 - ・ × GMOクラウド (GMO)
 - ・ × IDCfクラウド (IDCフロンティア)

主要な海外事業者の状況

主要な海外事業者の状況

- ・ **グローバル側にネイティブ接続を提供**
 - ・ ◎ **DigitalOcean (DigitalOcean)** (一部のリージョンを除く)
 - ・ ▲ **Google Cloud Platform** (一部サービスのみ。コンピューティングは非対応)
 - ・ ◎ **SoftLayer (IBM)**
- ・ **ロードバランサにIPv6アドレス割り当て可能**
 - ・ ▲ **AWS (Amazon)** (2013年春以前作成のアカウントかつ非VPCでの準仮想環境のみ)
- ・ **未対応 (対応予定あり)**
 - ・ × **Azure (マイクロソフト)**
 - ・ × **Rackspace (米 Rackspace社)**
- ・ **未対応 (対応予定明記なし)**
 - ・ × **Exoscale (スイス Exoscale社)**

(Docker Machine公式ドライバ対応サービスから調査)

Operation Lab

運用設計

<http://www.operation-lab.co.jp/>